

# どんぐりころころだよ!

26-4号

平成26年12月24日発行 福島恭子・大森志穂

公益財団法人 ソニー教育財団 では、以下のような主旨で、全国の熱意ある園の支援を目指しています。(ソニーとはあのSONYです)

乳幼児期の子どもたちが、人や自然、ものの仕組みを通して、思いやりの心、豊かな感性や好奇心、創造性を育て、いくつかが大切である。

いくつかの教育支援活動のひつに、論文募集があります。

今回、幼稚園どんぐりころころが応募した論文の内容は、設定されたテーマである「科学する心と育てる～豊かな感性と創造性の芽生えと育む～」について、「ス～3歳児の拾ったり取ったりする遊びから考える」と題して、毎日の保育記録をまとめたものと言えます。外遊び(下保谷の町はかの自然の中と歩き、遊ぶこと)の中で、子どもが経験していることと、その意味について、保育者が解釈したことをまとめたいです。

とは言え、十分に検討し、テーマに対して論理的に綴られた内容とは決して言えず、読み返してみても、腑がしい限りです。それでも、入選することになった理由は、どんぐりころころの子どもたちが幼児期にふさわしい経験を、成長していることが、認められたということだと思えます。ブログでもできる限り紹介しているつもりですが、自然の中と歩く子どもたちは、自分の目で何かを見つけ、自分の手や足を使って自出しているうちに、自分の様々な感覚を使って遊んでいます。それは全て、各自、自分の意志で行われていたことなのです。何でも「はいようてっか」子どもがすることには、全て意味があると思います。

どんぐりころころの子どもたちのありのままの姿が、どんぐりころころの

幼稚園どんぐりころころは、2014年度「ソニー 幼児教育支援プログラム」論文募集(テーマ:科学する心と育てる)に応募し、入選しました。※詳しくは、ソニー教育財団のホームページをご覧ください。今回のおたよりは、その報告をさせていただきます。

教育が、「それでいいのですよ。」と認められたのだと思いと、今回の論文入選はとて素晴らしいことなのです。(奨励園) 具体的には審査講評をいただいているのですか、その一部は、次のような内容です。

貴園は、日常的に子どもたちが大好きな「拾ったり取ったりする遊び」から、次の遊びを発想する姿の先にある行為まで注目しています。この拾ったり取ったりする行為の先にある、見たり、匂いを嗅いだり、手で触ったり、音を聞いたり、などの感覚、感性を使って、対象物と関わる子どもたちの姿を大切に受け止めて長期に亘って把握しています。このような取り組みが評価されました。「事例から言えること」には、大切な興味深い子どもの気付きが数多くまとめられています。(以下続きますが省略します。)

→ 一番の決め手は「子どもの主体性」、それに対して保育者が「寄り添う」ために対応。

どんぐりころころは、外遊びが中心で、経験が少いと思われ方もいるかもしれませんが、与えられるという意味では、確かにそうかもしれません。しかし、子どもは、自ら主体的に自然に関わりながら与えられる以上に多様な経験をすることが、今回、評価された点です。

わたしたち保育者は、子どものすることに形や結果を求めていませんが、その時していること、そのときに意味を見出し、出そうとし、子どもの姿に合わせて、見守ったり、手助けしたり、刺激を与えたりしています。(※もの、言葉、歌、一緒に同じことをすること、子どもがし(どうも)はいいと返すこと等) そのことで、子ども一人一人は満足し、納得します。形として残るもの、後身につくこともあります。それが幼児の学びです。ですから、外で経験したこと、室内での遊びについておぼろげながらもあるのです。

今回の論文には取上げられませんが、どんぐりころころの野外保育のよさはまだまだあります。地域の方が関心と寄せくださることで、直に子どもの姿を見ていただけるので、わたしたちのやりかたをすることと理解し、庭で遊ばせてくださったり、自宅であったり、果物等分けてくださったり、子どもが経験がより豊かになっていきます。改めて感謝いたします。今後、より優れた教育と実現させ、来年の論文募集では、上位入選を目指します。